

第6学年 国語科学習指導案

日時：令和6年11月13日(水) 5校時
 場所：清水小学校 6年生教室
 授業者：

1 単元名 作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう
 「やまなし」宮沢賢治 「(資料) イーハトーヴの夢」畑山博

2 単元・教材について

本教材は、一人称視点で書かれた外枠と、三人称の客観的な視点で書かれた「五月」「十二月」の二枚の幻灯という構造になっている。また、谷川の底から見た水中の世界が「五月」と「十二月」とを対比させながら、宮沢賢治独特の色彩豊かな表現で描かれている。さらに、比喩表現が多用されているということも特徴として挙げられる。これらの構成・表現によって場面の様子が思い浮かべやすいことに気付かせて、作品世界を捉えさせたい。また、資料「イーハトーヴの夢」を読むことで、作者の生き方や考え方に触れ、作者が作品に込めた思いを考えていきたい。単元の出口の活動として、「やまなし」を読んで何を感じ、何を考えたかを文章にまとめ、友達と交流する活動を設定している。作者の深い自然観や生命観への理解から、人間の内面や人生観にも迫るような読書体験にしていきたい。

3 研究との関わり

- (Ⅱ) - 2 深めの発問をすることにより、宮沢賢治の考え方とつなげて「やまなし」を捉えることができる。
- (Ⅱ) - 3 「言葉の宝箱」を意識させ、表現や語彙を増やしたり、単元を通して考えたことを蓄積・活用したりする。

4 単元の目標

- ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
- ◎物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1カ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1ク)	「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C1エ)	粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見直しをもって作品の世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。

5 単元指導計画

次	時	単位時間の目標	評価規準	並行読書
1	1	「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について話し合うことができる。	宮沢賢治の言動や出来事を整理することができる。(知識・技能) 宮沢賢治の生き方や考え方を捉えることができる。(思考力・判断力・表現力等)	「風の又三郎」「けん十公園園林」「どんぐりと山ねこ」「ふたこの星」「よだかの星」「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」「雪わたり」等 宮沢賢治が書いた書物
	2	宮沢賢治の他の作品を読んだ感想を共有し、宮沢賢治の考え方や生き方に共通する部分を見つけることができる。	作品の世界について考えたことや作品同士で共通していることを伝え合おうとしている。(学びに向かう力・人間性等)	
2	3	「やまなし」を読んで、初めの感想をもち、単元の終末の活動の見直しをもつことができる。	単元の終末の表現活動に向けて、興味をもって読もうとする。(学びに向かう力・人間性等)	
	4	「五月」「十二月」に描かれている風景を、簡単な図に表し、友達同士で見比べることで、視覚的に場面を捉えることができる。	文中の言葉から想像したことを絵や図に表している。(思考力・判断力・表現力等)	
	5	「五月」の言葉や表現から、川底の様子を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。	比喩や反復などの表現の工夫について気付いている。(知識・技能)	
	6	「十二月」の言葉や表現から、川底の様子を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。	物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(思考力・判断力・表現力等)	
	7本時	「五月」と「十二月」の場面を比べて読み、なぜ「やまなし」が題名なのかを話し合うことを通して、作者が作品に込めた思いを捉えることができる。	「五月」と「十二月」の場面を比べて読み、なぜ「やまなし」が題名なのかを話し合うことを通して、作者が作品に込めた思いを捉えている。(思考力・判断力・表現力等)	
8	宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いについて考え、理由を明らかにして文章にまとめることができる。	作者の作品に込めた思いについて、叙述に基づいて自分の考えをまとめている。(思考力・判断力・表現力等)		
3	9	自分が書いた文章を友達と読み合うことを通して、「やまなし」に込められた思いについて、考えを広げることができる。	積極的に自分の考えと比べながら友達の文章を読み、自分の考えを広げ、感想を伝え合っている。(学びに向かう力・人間性等)	
	10	単元全体を振り返り、単元の目標に立ち返って学習をまとめることができる。	本単元で学習したことを振り返って、ノートにまとめている。単元全体を振り返り、学んだことを今後にかかそうとしている。(学びに向かう力・人間性等)	

6 本時のねらい

「五月」と「十二月」の場面を比べて読み、なぜ「やまなし」が題名なのかを話し合うことを通して、作者が作品に込めた思いを捉えることができる。(思考力・判断力・表現力等)

7 本時の展開(7/10)

単元のきよみずガエル君：作品に描かれた世界をとらえるために、何に着目したかな。

言葉の宝箱：月光、もかもか、鋼のよう等

宮沢賢治の宝箱：希望、楽しさ、喜び、未来等

☆ (研究内容に関する指導援助)

段階	学習活動	研究内容に関わる指導・援助、評価規準		
つかむ	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日光の黄金はゆめのように」という表現から、とても美しく明るい世界を感じました。 ・「月光のにじがもかもか集まりました。」という表現から、月の優しい光や、やわらかで温かい感じがしました。 <p>2 課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">なぜ題名が「やまなし」なのだろう？</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の足跡や教科書の挿絵を活用しながら前時までの振り返りをする。 <p>☆単元の最後には、宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いについてまとめ、交流することを確認する。</p> <p>☆前時までで集めた言葉の宝箱から、観点ごとに整理するようにする。ロイロノートに前時に出た言葉を集めておき、観点ごとに分けやすくしておく。</p>		
深める	<p>3 班で「五月」「十二月」の場面を観点ごとに対比的にまとめる。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>五月</p> <p>〈水の光や様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青白い水の底 ・青く暗く鋼のよう ・日光の黄金・ゆらゆら ・光の黄金のあみ <p>〈かこの様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわをはく・居すくまる ・「こわいよ」 <p>〈上から来たもの〉かわせみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青光り・きらきら ・鉄砲玉のよう ・先がコンパスのように ・するどくとがっている </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>十二月</p> <p>〈水の光や様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白いやわらかな丸石 ・ラムネの瓶の月光 ・いいにおいでいっぱい ・月光のにじがもかもか ・金剛石の粉をはく <p>〈かこの様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわ比べ・やまなしの後を追う ・おどるようにして <p>〈上から来たもの〉やまなし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トブン・黒い丸い大きなもの ・きらきらの黄金のぶちがひかり ・ずうっと沈んで ・ぼかぼか流れる </td> </tr> </table> <p>4 班で「五月」と「十二月」の相違点を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏なのに冷たい感じ⇔冬なのに温かい感じ ・昼⇔夜 ・怖がるかに⇔楽しそうなかに ・命をうばうもの⇔命を与えるもの ・怖い世界からすぐ静かな世界に戻る⇔ほしい物をくれるきらきらした世界 <p>5 深めの発問をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;">「イーハトーヴの夢」と他の作品から考えたことを元にして考えよう。</div> <p>〈「イーハトーヴの夢」から〉</p> <p>苦しい農作業の中に楽しさを見つける。工夫することに喜びを見つける。そうして未来に希望をもつことが賢治の理想。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の厳しさより、自然の恵みの方をより伝えたかったから。 ・小さな谷川の世界でも生と死が隣合わせ。死ぬことにびくびくするよりも生きる喜びや楽しさを大切にほしかったから。希望をもってほしかったから。 	<p>五月</p> <p>〈水の光や様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青白い水の底 ・青く暗く鋼のよう ・日光の黄金・ゆらゆら ・光の黄金のあみ <p>〈かこの様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわをはく・居すくまる ・「こわいよ」 <p>〈上から来たもの〉かわせみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青光り・きらきら ・鉄砲玉のよう ・先がコンパスのように ・するどくとがっている 	<p>十二月</p> <p>〈水の光や様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白いやわらかな丸石 ・ラムネの瓶の月光 ・いいにおいでいっぱい ・月光のにじがもかもか ・金剛石の粉をはく <p>〈かこの様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわ比べ・やまなしの後を追う ・おどるようにして <p>〈上から来たもの〉やまなし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トブン・黒い丸い大きなもの ・きらきらの黄金のぶちがひかり ・ずうっと沈んで ・ぼかぼか流れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で観点ごとに整理する中で、「五月」と「十二月」を対比し気付いたことをどんどん呟ける雰囲気をつくれるようにする。難しい児童には、「五月」の特徴の反対の言葉を聞くなどして支援していく。 ・どの部分から対比関係にあるか下線を引いたり、矢印を書いたりして、根拠を説明できるように助言する。 <p>☆宮沢賢治の宝箱に集めていた宮沢賢治の思いや、他の作品との共通点と「やまなし」を結び付けて考えるように指示する。</p> <p>・個人追究→ペア交流→全体交流というように、思考を徐々に深めていける流れにしている。</p>
<p>五月</p> <p>〈水の光や様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青白い水の底 ・青く暗く鋼のよう ・日光の黄金・ゆらゆら ・光の黄金のあみ <p>〈かこの様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわをはく・居すくまる ・「こわいよ」 <p>〈上から来たもの〉かわせみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青光り・きらきら ・鉄砲玉のよう ・先がコンパスのように ・するどくとがっている 	<p>十二月</p> <p>〈水の光や様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白いやわらかな丸石 ・ラムネの瓶の月光 ・いいにおいでいっぱい ・月光のにじがもかもか ・金剛石の粉をはく <p>〈かこの様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわ比べ・やまなしの後を追う ・おどるようにして <p>〈上から来たもの〉やまなし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トブン・黒い丸い大きなもの ・きらきらの黄金のぶちがひかり ・ずうっと沈んで ・ぼかぼか流れる 			
まとめる	<p>6 課題に対するまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>「やまなし」とした理由は、宮沢賢治の理想の世界の象徴だからです。死に怯えて生きるよりも、やまなしを二日待って美味しいお酒ができることを待つように、未来に希望をもって生きてほしいという願いが込められているから題名が「やまなし」なのだと思います。</p> </div> <p>7 きよみずガエル君の振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>作品に描かれた様子を捉えるために、二つの場面を対比させたり、作者の考えと結びつけたりしました。そうすると、よく分からなかった表現でも意味があることが分かって面白かったです。</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>「五月」と「十二月」の場面を比べて読み、なぜ「やまなし」が題名なのかを話し合うことを通して、作者が作品に込めた思いを捉えている。(思考力・判断力・表現力等)</p> </div> <p>☆きよみずガエル君の振り返りをする中で、単元に身に付けたい「作品をより深く味わう技」を獲得した達成感を味わえるようにする。</p>		